

薬学1年生早期体験学習における実習指導者養成に関する検討

○山本 知佳^{1,2}, 勢島 英^{1,2}, 蓑原 豪人¹, 植木 美歩¹, 中原 純子¹, 久保田 知佳¹, 岡村 亜紗美¹, 糸山 美紀¹, 鷲山 厚司¹, 二神 幸次郎^{1,2} (¹福岡大薬, ²福岡大学薬学部)

【目的】平成18年より薬学部6年制が開始され、平成22年には長期実務実習が開始となる。日本病院薬剤師会の実務実習指導薬剤師の要件は、薬剤師の実務経験が5年以上かつ病院における実務経験が3年以上と規定されている。長期実務実習開始が間近に迫り、学生を指導する指導薬剤師の質と数の確保が急務である。我々は、既に実務体験を組み込んだ早期体験学習の有用性を報告している。今回、3年未満の実務経験者が本学習の指導を行うにあたっての実習指導者養成プログラムの構築を試みたので報告する。【方法】早期体験学習の学習目標や指導内容と指導方法を記載した早期体験学習指導ノートを作成した。これをもとに、新人薬剤師3名、薬剤師レジデント3名、計6名を対象とし、平成20年5月中旬～8月の間、病院薬剤師の業務のプレゼンテーション練習計9回(約10時間)とプレトリアル2回、実務体験のミーティング各1～2回、プレトリアル1回を実施し、指導内容の質の向上ならびに標準化を図った。【結果・考察】平成20年9月8～12日福岡大学薬学部1年生113名を当院薬剤部で早期体験学習を実施した。本学習の評価は、薬学生、指導薬剤師、薬学部教員へのアンケート調査にて行った。薬学生へのアンケート調査の結果、99%の学生が本学習を「有意義であった」と回答した。学習前後における病院薬剤師に対する関心は約16%向上し、85%の学生が今後の薬学部での学習への意欲向上を示した。また、指導薬剤師全員から本学習の薬学生への指導に対して「有意義であった」との回答が得られた。薬学部教員からも指導内容、指導方法ともに適切であるとの回答が得られ、指導内容や指導方法の標準化や質の向上を図ることができれば、実務経験が十分でない薬剤師であっても薬学1年生への早期体験学習指導が可能であることが示された。